



リチウムイオン電池による火災に注意！

充電して繰り返し使用できるリチウムイオン電池は、スマートフォンやモバイルバッテリー、これからの季節に使用が増えてくる携帯用扇風機など多くのものに使われていますが、このリチウムイオン電池による火災や事故が近年増加傾向にあります。リチウムイオン電池が使用された製品を扱う際には下記の点に気を付けましょう。

☆リチウムイオン電池による火災の防止ポイント

- ①指定された充電器を使用する！
- ②衝撃を与えない！
外部からの衝撃が加わると内部でショートし、発煙や発火に繋がります。手を滑らせ落としたり、ポケットに入れたまま座って体の下敷きにしたなどして事故となることがありますので注意しましょう。
- ③一般ごみなどと一緒に捨てない！
一般ごみなどと一緒に廃棄されると、ゴミ収集車で圧縮され火災となり、ゴミ収集車の破損や付近住宅への延焼、清掃局員の方の怪我、焼却施設の火災へと繋がりますので絶対にやめましょう。
- ④急に充電が切れた場合は使用を中止する！
- ⑤異常な高熱、膨張、変形がある場合は使用しない！
- ⑥分解や改造をしない！



※膨張した電池(左側)



※充電電池からの出火



キッズフェア開催！

7月17日(月)に「第8回消防キッズフェア」を開催します。クライミングウォールを登って「防火の鐘」を鳴り響かせたり水消火器での消火体験など、他にも楽しいコーナー・景品を用意していますのでたくさんのご来場をお待ちしています！

詳しい内容は後日、チラシとIP告知端末でお知らせします。

※画像は昨年の消防キッズフェアの様子です。



花火による火災・事故に注意！

夏の身近な風物詩として、おもちゃ花火を皆さん楽しまれていることかと思えます。しかし「おもちゃ」とはいえ、花火の原料として火薬が使用されています。遊び方を間違えると火傷などの思わぬ事故や火災に繋がってしまいます。下記のことには注意し、正しく・楽しく遊びましょう。

- 花火に書いてある遊び方をよく読んで、必ず守って遊ぶ！
手にもって遊ぶ「手持ち花火」と地上において遊ぶ「打上花火」は火の付け方が違いますので説明をよく読んで遊びましょう。
- 燃えやすいものの近くで遊ばない！
火花で衣類が燃え火傷したり、燃えやすいものに火が移り火災が起こるおそれがありますので、花火の向きや場所、距離には十分注意しましょう。
- 必ず水入りバケツを用意する！
遊び終わった花火は必ず水入りバケツの中に入れ、残り火を完全に消火しましょう。
- 1本ずつ遊ぶ！
同時に数本の花火を手を持ち点火すると、一気に大きな炎となって燃え上がり大変危険ですので1本ずつ遊びましょう。
- 花火をのぞき込まない！
点火の途中で火が消えてしまった場合、のぞき込むと顔に怪我や火傷する事故になり大変危険ですので絶対にやめましょう。
- 正しい位置に、正しい方法で点火する！
種類や形状によって点火位置が異なるので、点火方法を確認し、正しく点火させましょう。また、マッチやライターで直接点火させるのは危険ですのでろうそくなどを使用し点火させましょう。
- 風が強い時は遊ばない！
火の粉が風で流され思わぬ火災に繋がったり、火傷などの事故の危険があるので風が強い日はやめましょう。
- 子どもだけで遊ばない！



SFマーク付きおもちゃ花火を使用しましょう

(公社)日本煙火協会の検査所では、火薬類取締法に適合しているか否かを見る「基準検査」、また、花火の構造、燃焼現象、使用方法に係わる表示を確認し、実際に着火して危険の有無を調べる「安全検査」を実施しています。これらの検査に合格したおもちゃ花火には、SFマークが付されています。



SFマーク (Safety Fireworks)

※国内で流通する国産・輸入品のおもちゃ花火には上記マークがあります。

鶴居村防火標語募集中

● 締切：7月31日まで！ ●



緊急時はいつでもすぐに119番通報しましょう(火事・救急・救助)